

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-141	16-056	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
<p>Alcohol use among adults in Uganda: findings from the countrywide non-communicable diseases risk factor cross-sectional survey. ウガンダの成年における飲酒量の研究：非感染性疾患のリスクを調べる横断研究</p>		
執筆者		
Kabwama SN, Ndyababangi S, Mutungi G, Wesonga R, Bahendeka SK, Guwatudde D.		
掲載誌		
Glob Health Action. 2016 Aug 3;9:31302. doi: 10.3402/gha.v9.31302.		
キーワード		PMID
飲酒、非感染性疾患、WHO、サハラ以南のアフリカ、ウガンダ		27491961
要 旨		
<p>背景： サハラ以南のアフリカ諸国における飲酒量の研究は少ない。</p> <p>目的： 2014 年に実施されたウガンダにおける非感染性疾患のリスク要因の調査データに基づき、飲酒摂取状況と関連要因の評価を行った。</p> <p>方法： 調査では、飲酒歴も含むデータの調査は、WHO STEPS の手法で行われた。飲酒者は低用量・中用量・高用量に分類された。更に、1年間飲酒をやめることができない、通常の用量に抑えることができない、または、前夜に多量飲酒後午前中に飲酒をしてしまう、などの参加者は飲酒乱用に分類された。中高用量であることに関連する要因を調べるために、重み付きロジスティック回帰分析が用いられた。</p> <p>結果： 3956 名のうち、1,062 名 (26.8%) は現在飲酒があり、うち 314 名 (7.9%) が低用量、246 名 (6.2%) が中用量、502 名 (12.7%) が高用量であった。また、386 名 (9.8%) が飲酒乱用者と分類された。男性は女性よりも中高用量である傾向がみられた (調整済オッズ比 (adjusted odds ratio: AOR)) =2.34 [95% 信頼区間 (CI)=1.88–2.91]。中部・西部の住民は、東部の住民に比べ、中高用量である傾向がみられた (各々、AOR=1.47 (95% CI=1.01–2.12)、AOR=1.89 (95% CI=1.31–2.72)) 年齢層が 30–49 歳・50–69 歳では、18–29 歳の年齢層に比べ、中高用量である傾向がみられた (各々、AOR=1.49 (95% CI=1.16–1.91) and AOR=2.08 (95% CI=1.52–2.84))。</p> <p>結論： ウガンダ住民における飲酒量は総じて高い傾向があり、9.8%が飲酒乱用に分類された。</p>		